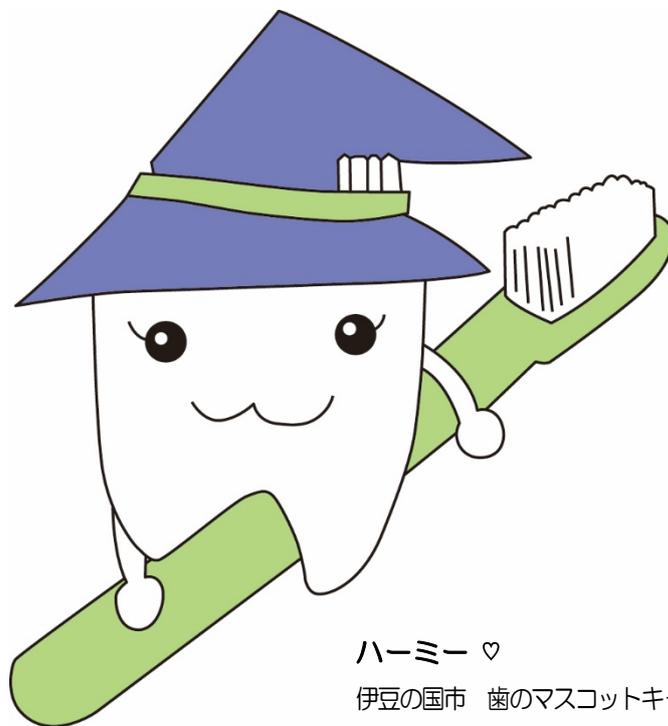


第5章 歯科保健計画



ハーミー ♡

伊豆の国市 歯のマスコットキャラクター

5 歯科保健計画の目標と取組み

【目指す姿】

若い世代から、^{はちまるにいまる}8020を目指す。

【基本理念】

「歯」は、食べ物を咀嚼し味わうことや会話を楽しむことなど、健やかで豊かな生活を送るうえで大きな役割を果たしており、歯を失うことは生活の質の低下を招きます。また、よく噛まずに食事をすることは、歯並びや噛み合わせに影響を及ぼすとともに、むし歯や歯周病にかかりやすい状況をつくります。このようなことから、近年、歯と口腔の健康が身体全体の健康と関わりを持っていることがわかってきています。

歯と口腔の健康には生活習慣が大きく影響しています。このため、乳幼児期から高齢期までの年齢に応じた歯と口腔の健康づくりを進め、若い世代から、80歳で20本の歯のある状態を目指した“^{はちまるにいまる}8020運動”の推進を図ります。

【計画の基本方針】

全ての市民が、生涯にわたって歯と口腔の健康を保ち、豊かな生活が送れるよう、歯と口腔の健康づくり推進委員会が中心となり、健康的な生活習慣の確立を基軸とした歯と口腔の健康づくりを、市民・関係機関・団体と共同で進めます。

本計画の取り組みを進めるにあたっては、「伊豆の国市健康増進計画」の考え方を基本として、これまでの成果や、社会環境の変化等を踏まえ、次に掲げる3つの柱を基本方針とします。

①ライフステージに応じた歯科口腔保健の推進

乳幼児期のむし歯予防や高齢期の歯と口腔の健康づくり等、口腔機能の発達支援から機能の低下防止まで、生涯を通じた切れ目のない歯科口腔保健に関する取り組みを進めます。

②むし歯予防と歯周病予防

広く市民に歯と口腔の健康について普及啓発し、歯と口腔の健康づくりを自己管理できる市民が増加するように取り組みます。

③歯科口腔保健を推進するための環境整備

市民・関係機関・団体との連携を強化し、歯と口腔の健康づくりの普及啓発を推進していきます。

5-1 胎生期及び妊娠期

【歯と口腔の特徴】

- 乳歯の形成期であり、妊娠中からバランスのとれた栄養摂取が大切です。
- つわりによる不十分な歯みがき、唾液の量や性状の変化などにより、むし歯や歯周病の増加がみられます。

【現状・課題】

- 喫煙する若い女性に対しては、妊娠期を含めた禁煙への取組みを更に充実させる必要があります。
- パパママ学級では、自分自身と生まれてくる子どもの歯と口腔の健康づくりなどの健康教育を実施しています。
- 妊娠届提出時健康相談では、歯周病検診受診勧奨を含めた意識の向上を図っていますが、妊娠による生理的変化に対応した歯と口腔の健康づくりに関する意識の向上を更に推進していく必要があります。

【基本方針】

○妊婦が自分の歯と生まれてくる子どもの歯のむし歯や歯周病の予防に必要な技術を身につけることができるよう知識の普及に努めます。

【目標】

- 妊娠期における自分自身と胎児の歯と口腔の健康づくりに必要な知識について普及します。
- 妊婦が自ら生活習慣を見直し、改善できるように支援します。

【指標】

指標	現状	評価	目標値 (H38)	出典
妊娠中に歯周病検診・指導を受ける人の割合	—	—	10%	
妊婦の喫煙率	3.9%	C	0%	H27 保健事業報告書

①健康づくり課の取組み

妊娠届出時健康相談

○妊娠届出時健康相談で、妊娠による生理的变化に対応した、たばこ対策を含めた歯と口腔の健康づくりの普及啓発を実施します。

パパママ学級

○パパママ学級を通じて妊婦及びその家族に、妊婦の栄養及び歯と口腔の健康づくりに関する健康教育を実施します。

妊婦歯科健診

○妊娠届出時健康相談で、歯周病検診の受診を勧奨します。

○妊娠期から歯周病検診を受けやすい環境を整えます。

普及啓発

○妊娠届出時健康相談、パパママ学級等を通じて、歯と口腔の健康づくりに関する情報の提供や妊婦歯周病検診の普及啓発を行います。

②歯と口腔の健康づくり推進委員会の取組み

普及啓発

○パンフレット等を利用した歯と口腔の健康づくりの普及啓発に努めます。

○伊豆の国市歯のマスコットキャラクターハーミー♡の認知度向上と、ハーミー♡によるむし歯や歯周病予防の普及啓発を図ります。

③市民の取組み

○自分の歯の健康に対する関心を高め、歯周病検診を受診するなど、歯と口腔の健康づくりに努めます。

○喫煙等の健康被害の防止に努めます。

○正しい歯みがきの仕方を身につけるよう努力します。

○食後の歯みがきを習慣化します。

○よく噛んで食べるようにします。

④関係機関の取組み

○歯科医療機関等の関係機関は、妊婦の歯周病検診に協力します。

○指導や治療が必要な人に対し治療を受けやすい環境づくりに努めます。

5-2 次世代（乳幼児期 0～5歳）

【歯と口腔の特徴】

- 乳歯が生え始め、食べる機能が発達します。
- 乳歯の歯並びが完成します。
- 乳歯に混じって永久歯が生え始めます。
- 発音が完成します。
- 顎の骨の発育が著しい時期です。

【現状・課題】

- 1歳6か月児から4歳児まで、フッ素塗布を実施しています。
- 1歳6か月児から4歳児でフッ素塗布を受けている子どもは7割にとどまり、フッ素塗布を実施しない理由として「時間が合わない」「歯医者で塗布している」と答えています。
〈図表 5-2-1〉〈図表 5-2-2〉
- 幼稚園、保育園と連携し、4、5歳児のフッ素洗口を実施しているため、フッ素洗口実施者数は高い水準にあります。〈図表 5-2-3〉
- 歯の健康に関心を持っている人は94.1%ですが、仕上げみがきをしている人は83.9%で平成24年度の調査に比べるとそれぞれ5～8ポイント上昇しています。今後も仕上げみがきの大切さを啓発していく必要があります。〈図表 5-2-4〉〈図表 5-2-5〉
- 3歳から5歳の間にむし歯に罹患する子どもが増えています。〈図表 5-2-6〉〈図表 5-2-7〉〈図表 5-2-8〉
- 平成17年から平成27年にかけて3歳児、5歳児のむし歯本数は減少傾向にあります。
〈図表 5-2-7〉〈図表 5-2-8〉
- 卒乳が遅くなり、今後むし歯の罹患率が上昇する可能性があるため、さらにむし歯予防に関する普及啓発を推進していく必要があります。

【基本方針】

- むし歯予防で健やかな発達と楽しい育児を支援します。
- むし歯や歯周病等の早期発見、早期治療ができるよう保健医療体制の充実を図ります。

【目標】

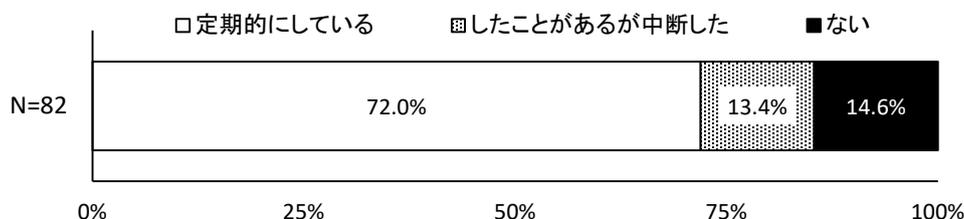
- むし歯予防と子どもの歯と口腔の健康づくりの普及啓発を推進します。
- むし歯予防の為、フッ素塗布、フッ素洗口事業を今後も推進します。

【指標】

指標	現状	評価	目標値（H33）	出典
むし歯のある子どもの割合 （1歳6か月児）	1.2%	A	減少	保健事業報告書
むし歯のある子どもの割合 （3歳児）	12.2%	A	11.0%	
むし歯のある子どもの割合 （5歳児）	43.3%（H26）	B	38.0%	
フッ素塗布をする子どもの 割合（3歳児）	87.9%	A	増加	
フッ素洗口をする子どもの 割合	98.0%	D	維持	

●図表 5-2-1 フッ素塗布実施の有無

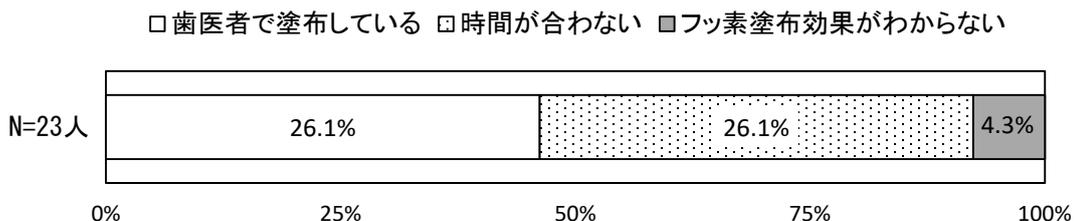
定期的にフッ素塗布をしている人が、72.0%います。



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-2-2 フッ素塗布を実施しない理由

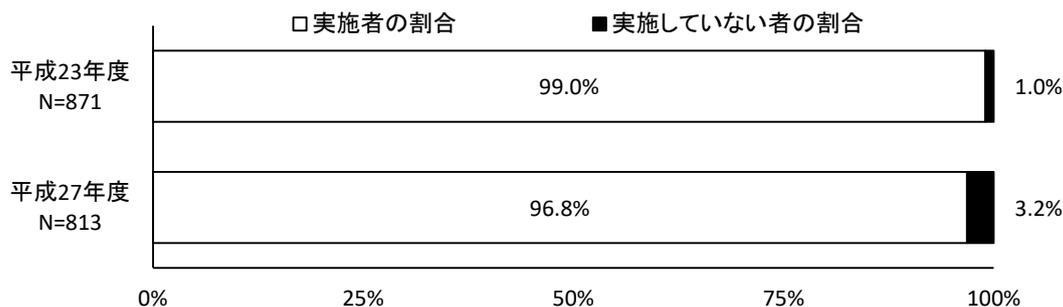
フッ素塗布を実施しない理由は、歯医者で塗布している、時間が合わないがともに 26.1%となっています。



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-2-3 幼稚園・保育園のフッ素洗口実施者数の割合

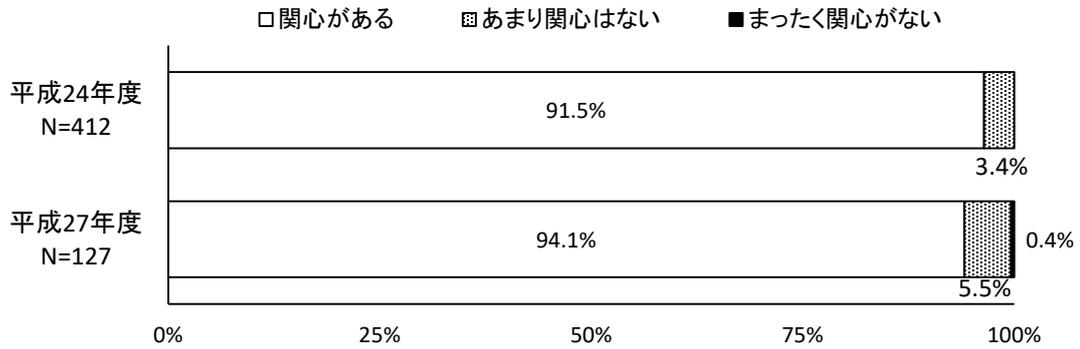
フッ素洗口実施者数の割合は、高い水準にあります。



出典：平成 27 年度 伊豆の国市保健事業報告

●図表 5-2-4 歯の健康への関心度(0~5歳児)

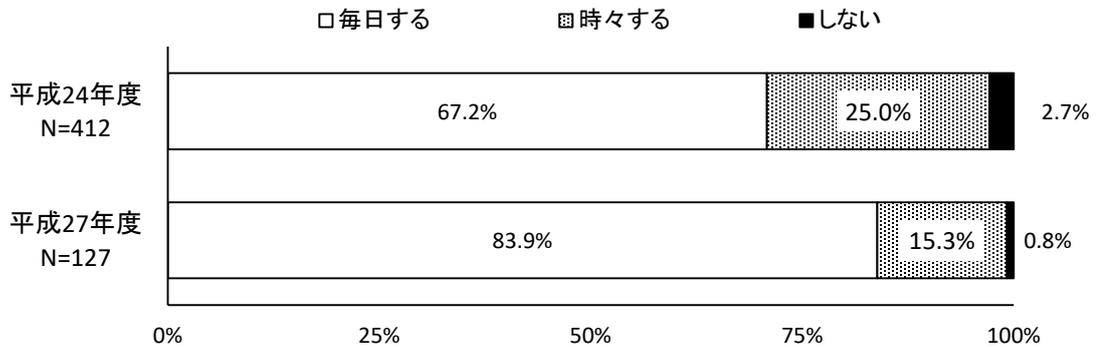
歯の健康に関心がある保護者は、94.1%と平成24年度と比べて増えています。



※平成24年度の無回答は除く。出典：平成28年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-2-5 仕上げみがきの頻度(0~5歳児)

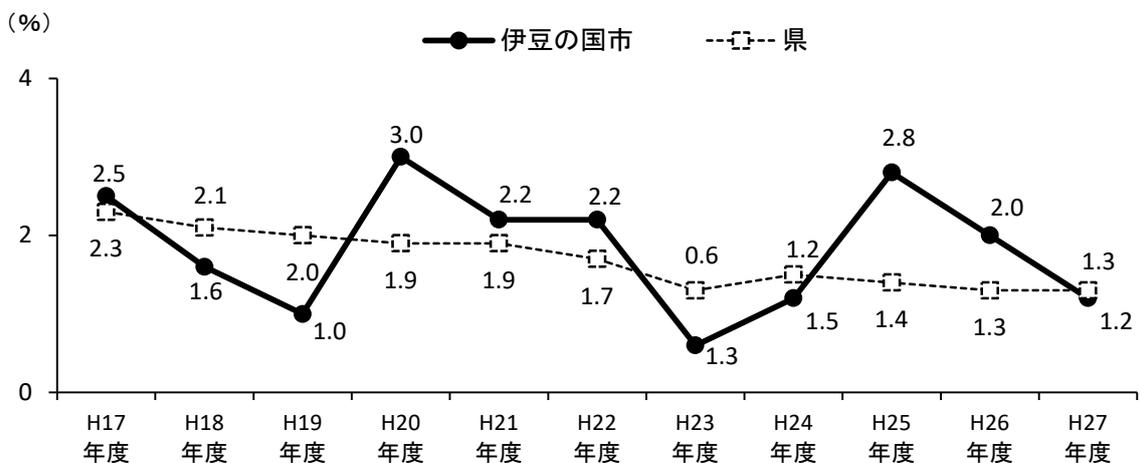
「毎日仕上げ磨きをする」が最も多く83.9%と平成24年度と比べて増えています。



※平成24年度の無回答を除く。出典：平成28年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-2-6 1歳6か月児むし歯り患率

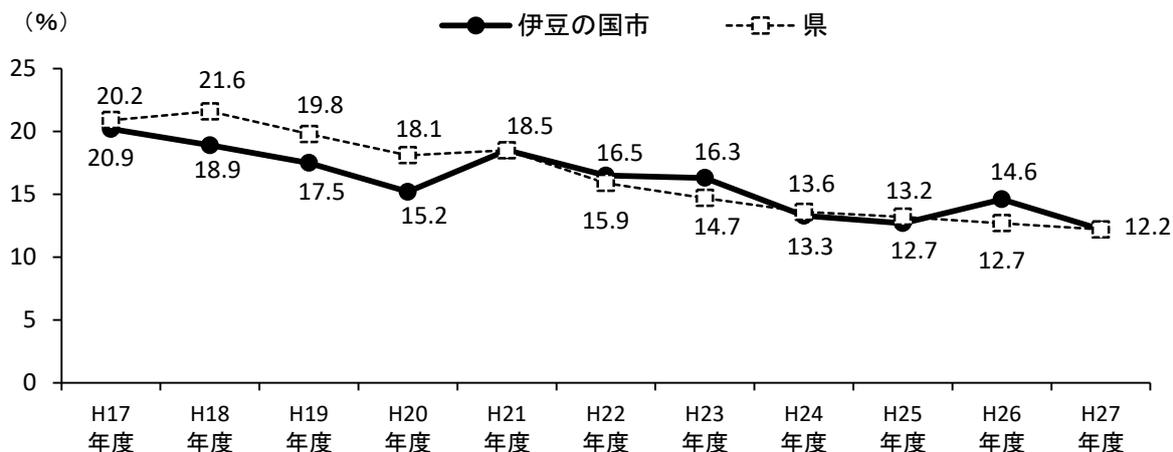
1歳6か月児のむし歯り患率は、平成27年度は1.2と静岡県を下回っています。



出典：静岡県1歳6か月歯科調査結果

●図表 5-2-7 3歳児むし歯り患率

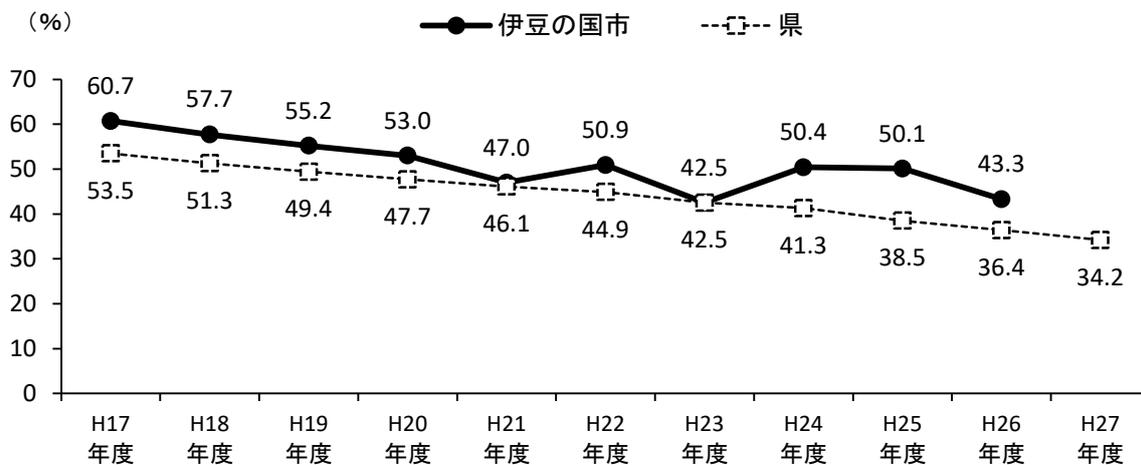
3歳児のむし歯り患率は、減少傾向で、平成27年度は12.2となっています。



出典：静岡県3歳児歯科調査結果

●図表 5-2-8 5歳児むし歯り患率

5歳児のむし歯り患率は、静岡県を上回っているものの、減少傾向にあります。



※伊豆の国市平成27年度のデータなし

出典：静岡県5歳児歯科調査結果

①健康づくり課の取組み

乳幼児定期歯科健診

○1歳6か月児、3歳児の歯科健診及び2歳児の親子歯科健診を実施するとともにむし歯予防などの指導を行います。

フッ素塗布

○1歳6か月児から4歳児の希望者を対象として、定期的にフッ素塗布を継続実施します。
○フッ素塗布を受けやすいよう、1歳6か月児・2歳児・3歳児健診時にフッ素塗布を実施します。

フッ素洗口

○幼稚園、保育園と連携し、4歳児、5歳児の希望者を対象としたフッ素洗口を継続実施します。

歯科教室

○幼稚園、保育園と連携し、歯科教室を継続実施します。

普及啓発

○乳歯の生え始めからむし歯予防をすすめるため、6か月児相談や育児相談、幼児健診等あらゆる機会を通じてむし歯予防を普及啓発します。
○1歳6か月児・2歳児・3歳児健診、フッ素塗布時に歯科衛生士によるむし歯予防等の指導を継続実施します。
○フッ素入り歯磨剤の早期からの使用や仕上げ磨き（寝かせ磨き）、フロス使用等の指導を実施し、むし歯予防を推進します。
○むし歯だけでなく、よく噛むことや歯みがきの大切さなど、子どもの歯と口腔の健康づくりを普及啓発します。
○6か月児相談時、各園4歳児・5歳児及び保護者を対象とした歯科教室を実施し、歯みがきや歯の大切さの啓発に努めます。

人材育成

○歯科保健関係者の資質の向上を図ります。

②歯と口腔の健康づくり委員会

普及啓発

○パンフレット等を利用した歯と口腔の健康づくりの普及啓発に努めます。
○伊豆の国市歯のมาสコットキャラクターのハーミー♡の認知度向上と、ハーミー♡によるむし歯や歯周病予防の普及啓発に努めます。
○紙芝居等の媒体を使って、分かりやすい歯と口腔の健康づくりの普及啓発に努めます。

③市民の取組み

○大人は、子どもの間食やおやつの内容、回数等に配慮します。
○子どもの歯の仕上げ磨きやフッ素塗布、フッ素洗口の実施するよう努めます。

- 子どもを通じて、家族みんなが正しい歯みがきの仕方を身につけるよう努めます。
- 自分の歯の健康に対する関心を高め、歯と口腔の健康づくりに努めます。
- 各種イベントにおける「歯科コーナー」へ参加するよう努めます。
- 食後の歯みがきを習慣化します。
- よく噛んで食べるようにします。

④関係機関の取組み

- 歯科医療機関等の関係機関は、歯科健診、フッ素塗布、フッ素洗口に協力します。
- 指導や治療が必要な人に対し治療を受けやすい環境づくりに努めます。

5-3 次世代（学童期 6～12歳）

【歯と口腔の特徴】

- 乳歯と永久歯の生え変わる時期で、永久歯列の完成時期でもあります。
- 永久歯がむし歯になりやすい時期です。
- 小学校の高学年になると歯肉炎を発症しやすくなります。

【現状・課題】

- 小学校の協力を得て、全小学校でフッ素洗口を実施しています。〈図表 5-3-1〉
- 保護者の歯の健康への関心度は、93.8%と高くなっています。〈図表 5-3-2〉
- 小学校低学年までのむし歯罹患率と一人平均むし歯数は県平均と同水準ですが、小学校高学年から中学生にかけて、むし歯罹患率と一人平均むし歯数は、県内市町の中でトップレベルの低さとなっています。〈図表 5-3-3〉〈図表 5-3-4〉〈図表 5-3-5〉〈図表 5-3-6〉
- 歯肉炎要観察・要精検者割合は、小学校では減少傾向に、中学校では横ばい状況にあります。が、歯肉炎予防の普及啓発は必要です。〈図表 5-3-7〉〈図表 5-3-8〉
- 未処置率は小学校低学年を中心に改善されており、田方地区と比べ良い値となっています。〈図表 5-3-9〉〈図表 5-3-10〉

【基本方針】

- 自分にあった歯みがき習慣を身につけ、むし歯や歯肉炎の予防ができるように支援します。
- むし歯や歯周病等の早期発見、早期治療ができるよう保健医療体制の充実を図ります。

【目標】

- 小学校の協力を得て、フッ素洗口事業を継続実施します。
- むし歯及び歯肉炎の予防に必要な歯みがき方法と、歯と口腔の健康づくりの普及啓発を推進します。
- むし歯や歯周炎等の早期発見、早期治療ができるように歯科受診しやすい環境整備をします。

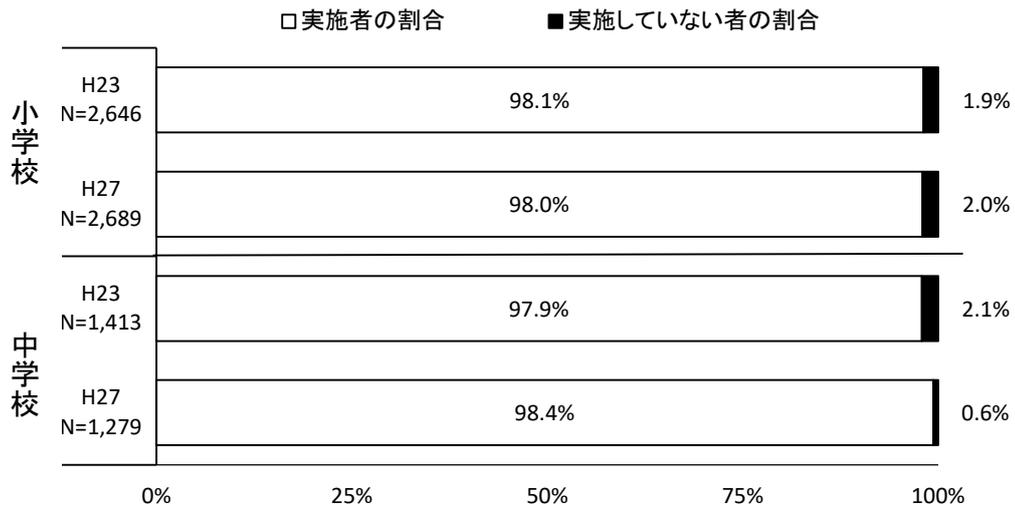
【指標】

指 標	現状	評価	目標値（H38）	出典
むし歯のない子どもの割合（小6）	(H26)87.5%	A	増加	田方のこども
歯垢 ^{しこう} の状態（若干の付着・相当の付着）（小6）	13.2%	B	減少	
歯肉の状態（要観察・要精検）（小6）	6.2%	A	減少	

	現状	評価	目標値 (H38)	出典
フッ素洗口実施者率 (小学生全体)	98.0%	B	維持	H27 保健事業報告書
歯科教室	全小学校実施	B	維持	

●図表 5-3-1 小中学校のフッ素洗口実施者数の割合

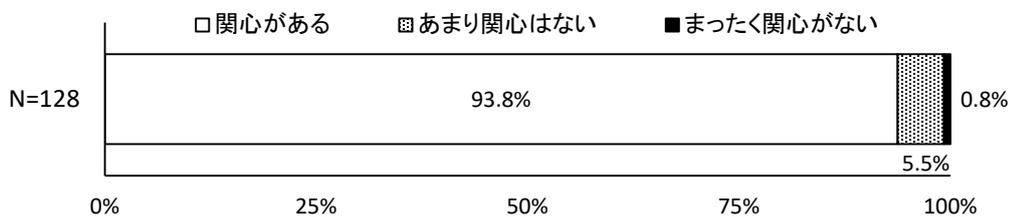
フッ素洗口実施者は、9割以上を占めています。



出典：平成 27 年度 伊豆の国市保健事業報告

●図表 5-3-2 保護者の歯の健康への関心度

関心があるが 93.8%と、9割以上を占めています。



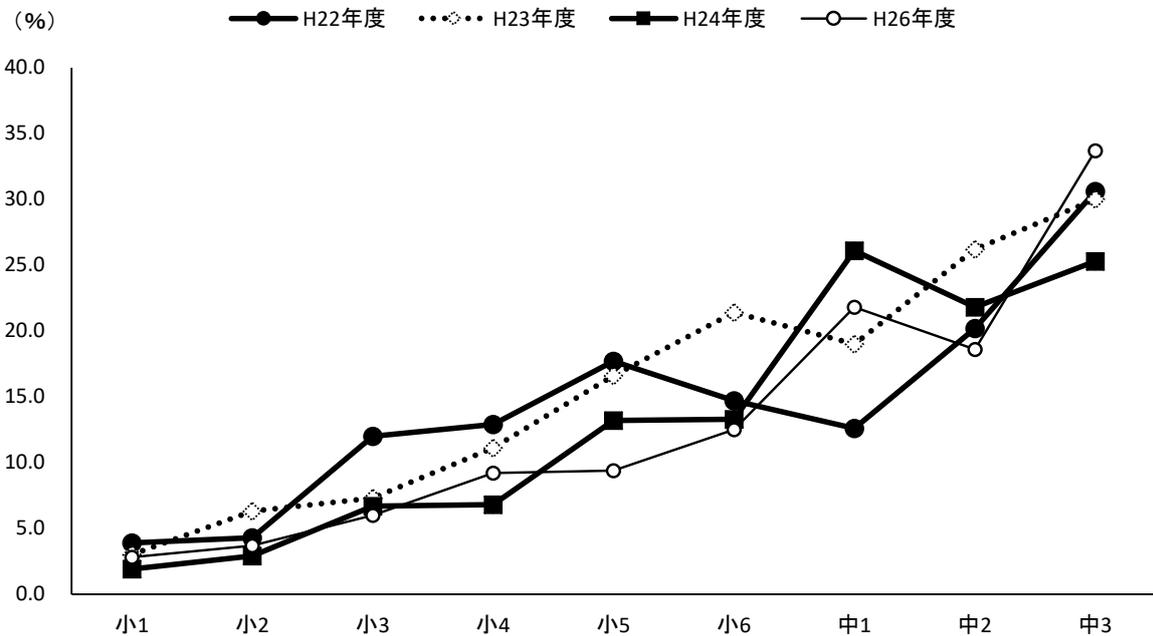
出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-3-3 小中学校のむし歯り患率(再掲)

		(%)								
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成17年度	伊豆の国市	2.8	6.1	10.2	18.3	21.3	28.2	29.1	38.7	40.2
	県内順位	16	25	11	23	4	3	1	1	1
静岡県		4.2	11.3	18.7	27.7	35.7	42.2	48.9	55.8	60.1
平成21年度	伊豆の国市	2.3	9.1	10.4	20.9	16.8	22.7	23.8	26.4	31.9
	県内順位	36	2	6	4	3	3	1	1	1
静岡県		3.1	8.0	13.3	19.9	25.9	32.2	39.0	45.9	51.4
平成22年度	伊豆の国市	3.9	4.3	12.0	12.9	17.7	14.7	12.6	20.2	30.6
	静岡県	3.3	7.5	12.2	18.2	24.5	29.6	37.1	42.8	48.8
平成23年度	伊豆の国市	3.0	6.3	7.3	11.1	16.6	21.4	19.0	26.2	30.0
	静岡県	3.2	7.7	11.9	17.8	22.5	28.7	35.2	41.1	46.0
平成24年度	伊豆の国市	1.9	2.9	6.7	6.8	13.2	13.3	26.1	21.8	25.3
	静岡県	2.7	6.7	12.0	16.3	21.4	26.7	32.7	38.1	43.4
平成25年度	伊豆の国市									
	静岡県									
平成26年度	伊豆の国市	2.8	3.7	6.0	9.2	9.4	12.5	21.8	18.6	33.7
	静岡県	2.4	5.5	9.1	14.8	20.0	22.9	29.6	34.0	39.1

出典：静岡県学校歯科健康診断結果
 ※H25年度はデータなし

●図表 5-3-4 小中学校のむし歯り患率



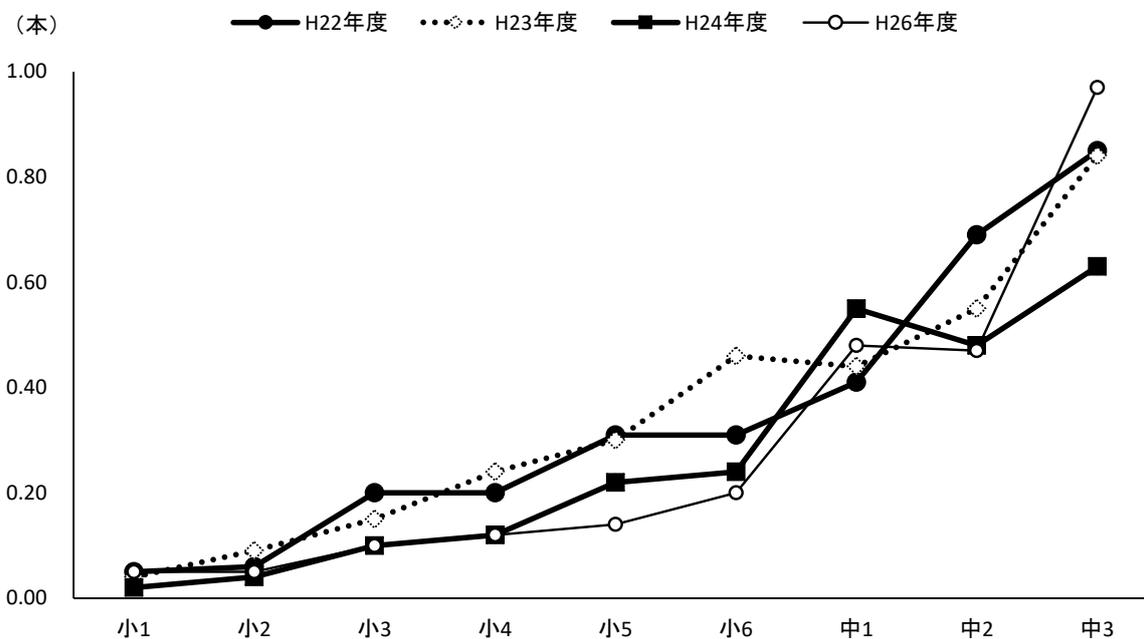
出典：静岡県学校歯科健康診断結果

●図表 5-3-5 小中学校の一人平均むし歯数(県内順位)(再掲)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成17年度	伊豆の国市	0.03	0.09	0.20	0.30	0.50	0.60	0.70	1.00	1.30
	県内順位	34	20	5	3	5	4	1	1	1
	静岡県	0.07	0.20	0.40	0.60	0.80	1.10	1.50	1.90	2.30
平成21年度	伊豆の国市	0.04	0.15	0.20	0.35	0.29	0.43	0.59	0.63	0.75
	県内順位	19	24	13	15	2	2	1	1	1
	静岡県	0.05	0.14	0.25	0.39	0.55	0.76	1.06	1.41	1.77
平成22年度	伊豆の国市	0.05	0.06	0.20	0.20	0.31	0.31	0.41	0.69	0.85
	静岡県	0.05	0.13	0.22	0.35	0.51	0.69	0.99	1.29	1.63
平成23年度	伊豆の国市	0.04	0.09	0.15	0.24	0.30	0.46	0.44	0.55	0.84
	静岡県	0.05	0.13	0.22	0.34	0.47	0.66	0.93	1.22	1.54
平成24年度	伊豆の国市	0.02	0.04	0.10	0.12	0.22	0.24	0.55	0.48	0.63
	静岡県	0.04	0.11	0.22	0.31	0.45	0.59	0.83	1.10	1.41
平成25年度	伊豆の国市									
	静岡県									
平成26年度	伊豆の国市	0.05	0.05	0.10	0.12	0.14	0.20	0.48	0.47	0.97
	静岡県	0.04	0.09	0.16	0.29	0.43	0.51	0.75	0.94	1.21

出典：静岡県学校歯科健康診断結果
 ※H25年度はデータなし

●図表 5-3-6 小中学校の一人平均むし歯数



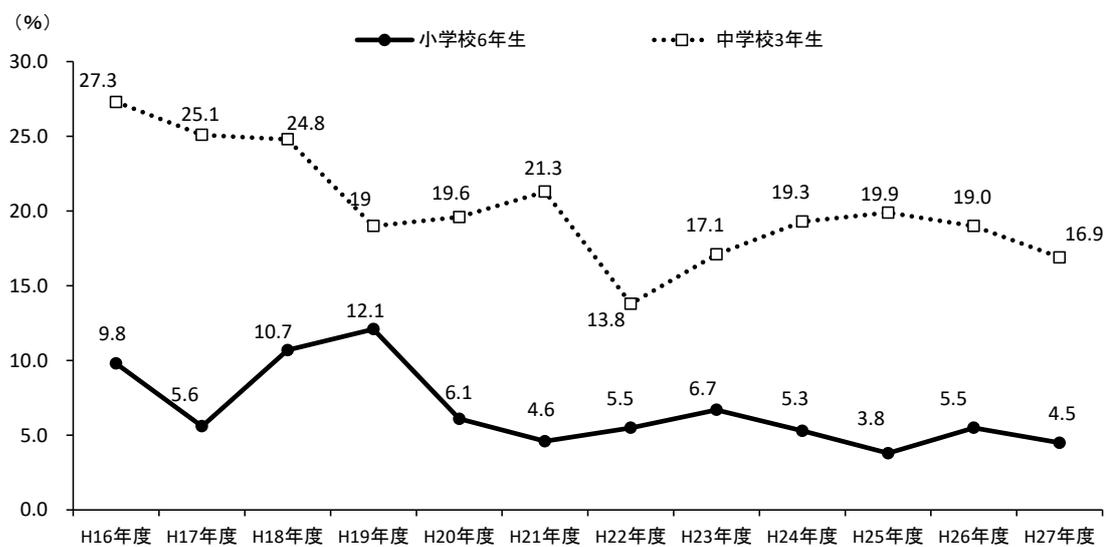
出典：静岡県学校歯科健康診断結果

●図表 5-3-7 小中学校の歯肉炎の状況

	小学校				中学校			
	総数	要観察	要精検	要観察・ 要精検 割合	総数	要観察	要精検	要観察・ 要精検 割合
平成16年度	2,901	273	11	9.8%	1,368	305	69	27.3%
平成17年度	2,868	153	7	5.6%	1,344	267	71	25.1%
平成18年度	2,806	284	16	10.7%	1,376	263	78	24.8%
平成19年度	2,746	259	74	12.1%	1,390	210	54	19.0%
平成20年度	2,732	150	17	6.1%	1,365	179	88	19.6%
平成21年度	2,655	113	10	4.6%	1,411	196	104	21.3%
平成22年度	2,642	145	0	5.5%	1,377	146	44	13.8%
平成23年度	2,619	171	5	6.7%	1,385	188	49	17.1%
平成24年度	2,571	111	24	5.3%	1,346	209	51	19.3%
平成25年度	2,585	91	7	3.8%	1,327	205	59	19.9%
平成26年度	2,524	132	6	5.5%	1,308	193	55	19.0%
平成27年度	2,473	104	7	4.5%	1,281	159	57	16.9%

出典：静岡県学校歯科健康診断結果

●図表 5-3-8 小中学校の歯肉炎要観察・要精検者割合の推移



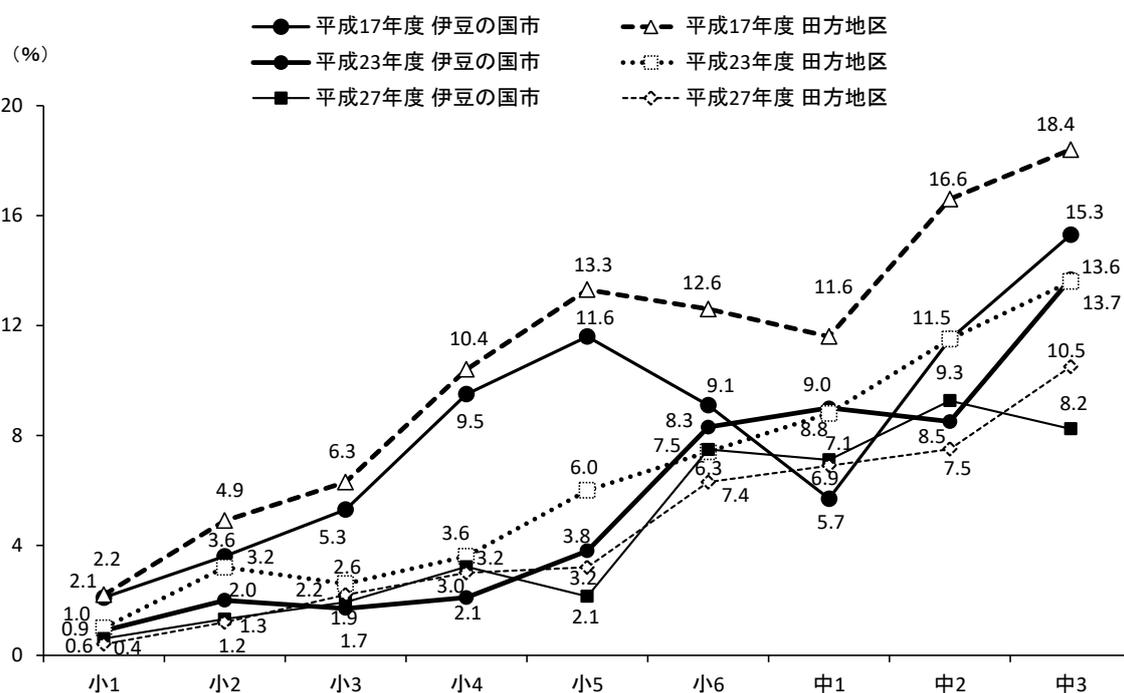
出典：田方のこども

●図表 5-3-9 小中学校の未処置率

単位(%)

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
平成17年度	伊豆の国市	2.1	3.6	5.3	9.5	11.6	9.1	5.7	11.5	15.3
	田方地区	2.2	4.9	6.3	10.4	13.3	12.6	11.6	16.6	18.4
平成23年度	伊豆の国市	0.9	2.0	1.7	2.1	3.8	8.3	9.0	8.5	13.7
	田方地区	1.0	3.2	2.6	3.6	6.0	7.4	8.8	11.5	13.6
平成27年度	伊豆の国市	0.6	1.3	1.9	3.2	2.1	7.5	7.1	9.3	8.2
	田方地区	0.4	1.2	2.2	3.0	3.2	6.3	6.9	7.5	10.5

●図表 5-3-10 小中学校の未処置率



出典：田方のこども

①健康づくり課の取組み

歯科教室

○小学校と連携し、歯科衛生士による歯科教室を実施します。

フッ素洗口

○小学校と連携し希望者を対象としたフッ素洗口を継続実施します。

学校との連携

○児童のむし歯や歯周病などの予防のため、小学校と連携し、学校歯科保健活動を支援します。

普及啓発

○児童と保護者に対して、むし歯の原因や甘味食品等の歯と口腔の健康づくりに関する情報を提供します。

○正しい歯みがき方法、望ましい間食のとり方などに関するパンフレットや教材等を提供するなど学校保健における歯と口腔の健康づくりを充実します。

人材育成

- 歯科保健関係者の資質の向上を図ります。

②歯と口腔の健康づくり委員会

普及啓発

- パンフレット等を利用した歯と口腔の健康づくりの普及啓発に努めます。
- 伊豆の国市歯のマスコットキャラクターのハーミー♡の認知度向上と、ハーミー♡によるむし歯や歯周病予防の普及啓発に努めます。

③市民の取組み

- 大人は、子どもの間食やおやつの内容、回数等に配慮します。
- 子どもを通じて家族みんなが正しい歯みがきの仕方を身につけるよう努力します。
- 自分の歯の健康に対する関心を高め、歯と口腔の健康づくりに努めます。
- 各種イベントにおける「歯科コーナー」へ参加するよう努めます。
- 食後の歯みがきを習慣化します。
- 歯を強くし、むし歯を予防するためフッ化物の利用に取り組みます。
- よく噛んで食べるようにします。

④関係機関の取組み

- 関係機関は、歯科健診、フッ素洗口、歯の健康に関する講演会の開催に協力します。

5-4 次世代（思春期 13～19 歳）

【歯と口腔の特徴】

- 永久歯が完全に萌出し、むし歯も多発する時期です。
- 歯肉炎が発症しやすい時期です。

【現状・課題】

- 中学校の協力を得て、全中学校でフッ素洗口事業を実施しています。〈図表 5-3-1〉
- 中学生のむし歯り患率と一人平均むし歯数は、県平均よりも低い水準となっています。〈図表 5-3-3〉〈図表 5-3-4〉〈図表 5-3-5〉〈図表 5-3-6〉
- 歯の健康について関心のある 13 歳から 19 歳は全体で 49.5%です。歯と口腔の健康づくりについて普及啓発していく必要があります。〈図表 5-4-1〉
- 専門学校生他の人たちは、年に一回以上の歯科健診に行っていない割合は 76.7%で平成 24 年調査に比べ 20 ポイント上昇しています。一方、行かない主な理由として、58.2%の人が「悪いところがなかった」と答えています。〈図表 5-4-2〉〈図表 5-4-3〉

【基本方針】

- 規則正しい生活習慣で、むし歯や歯肉炎を減少させることができるように支援します。
- むし歯や歯周病等の早期発見、早期治療ができるよう保健医療体制の充実を図ります。

【目標】

- 中学校の協力を得て、フッ素洗口事業を継続します。
- 規則正しい生活習慣を維持し、自ら歯と口腔の健康管理ができるよう支援します。
- 歯と口腔に関する課題を自ら気づき、生活習慣の改善など毎日の生活に活かすことができるよう支援します。

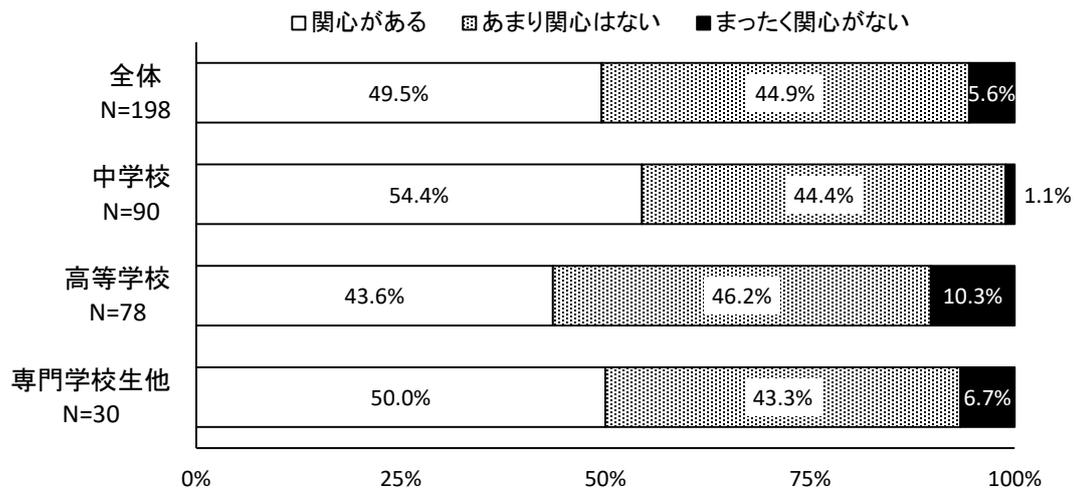
【指標】

指 標	現状	評価	目標値（H33）	出典
歯みがきを1日2回以上する人の割合（16 歳～19 歳）	81.3%	A	増加	H28 年度伊豆の国市健康アンケート調査
むし歯のない生徒の割合（中3）	66.3%	D	増加	田方の子ども
歯垢の状態（若干の付着・相当の付着）（中3）	31.1%	D	減少	
歯肉の状態（要観察・要精検）（中3）	29.5%	D	減少	

	現状	評価	目標値 (H33)	出典
フッ素洗口実施率 (中学生全体)	98.4%	A	維持	保健事業報告書
歯科教室(中1対象)	全校実施	A	維持	

●図表 5-4-1 歯の健康への関心度(13~19歳)

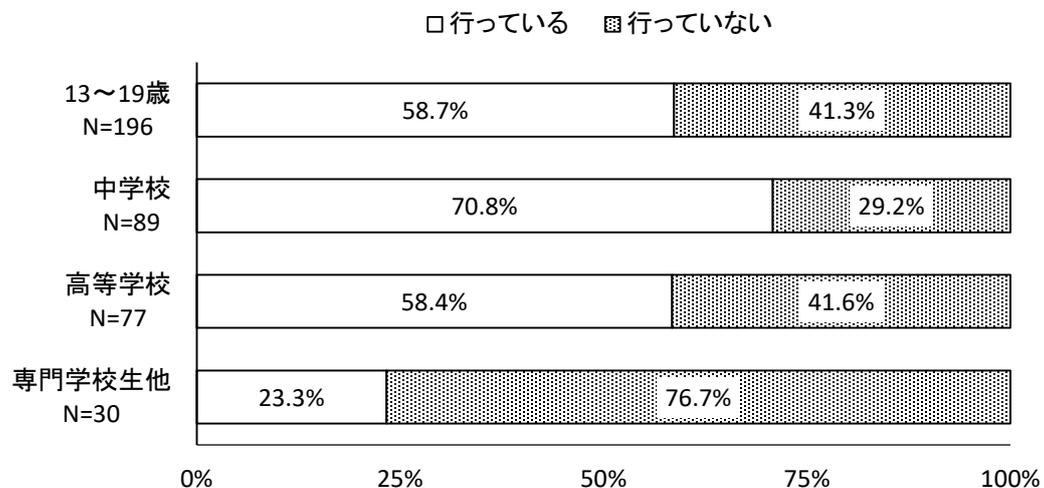
歯の健康への関心のある人は、全体の49.5%となっています。



出典：平成28年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-4-2 年齢階層別の歯科健診受診状況

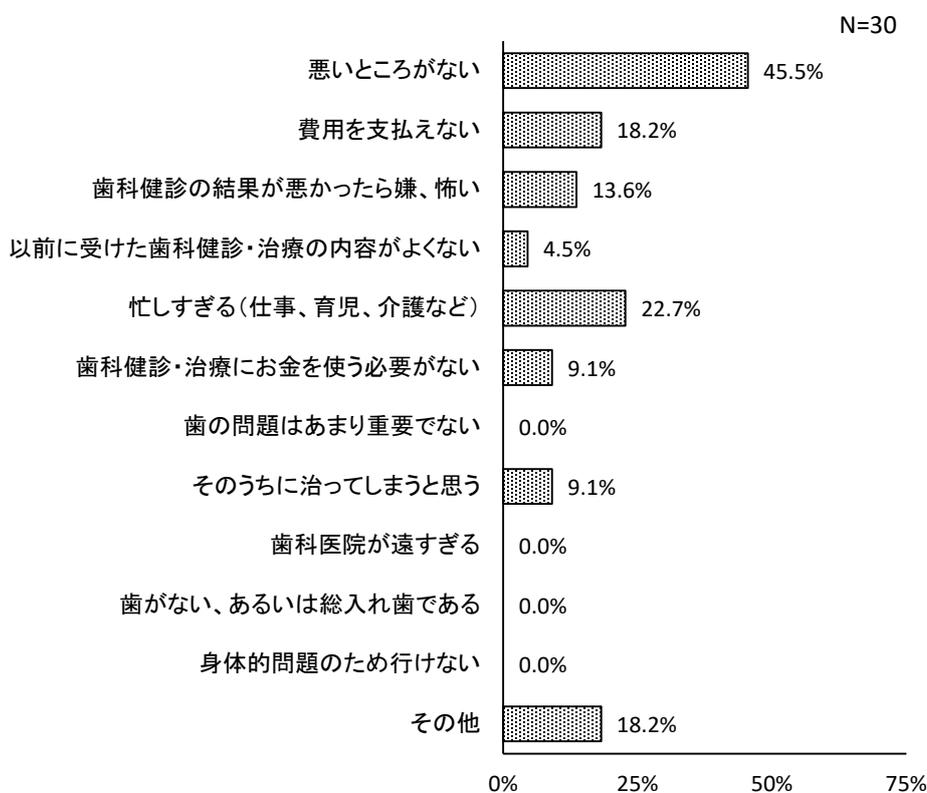
1年に1回以上の歯科定期健診に行っている人は、中学生では70.8%と高いですが、専門学校生他では、行っていない人が76.7%となっています。



出典：平成28年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-4-3 歯科健診に行かない理由(専門学校生他)

「悪いところがない」が最も多く、次いで「忙しすぎる」が多くなっています。



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

①健康づくり課の取組み

歯科教室

○中学校と連携し、歯科衛生士による歯科教室を実施します。

普及啓発

○むし歯の原因や甘味食品、歯周病予防等の歯と口腔の健康づくりに関する情報を提供します。

○歯周病予防のため、歯間清掃器具の使用を普及啓発します。

○正しい歯みがき方法、望ましい間食のとり方などに関するパンフレットや教材等を提供するなど学校保健における歯と口腔の健康づくりを普及啓発します。

フッ素洗口

○中学校と連携し、希望者を対象としたフッ素洗口を実施します。

学校との連携

○生徒のむし歯や歯周病などの予防のため、中学校と連携し、学校歯科保健活動を支援します。

人材育成

○歯科保健関係者の資質の向上を図ります。

②歯と口腔の健康づくり委員会

普及啓発

- パンフレット等を利用した歯と口腔の健康づくりの普及啓発に努めます。
- 伊豆の国市歯のマスコットキャラクターハーミー♡の認知度向上と、ハーミー♡によるむし歯や歯周病予防の普及啓発に努めます。

③市民の取組み

- 正しい歯みがきの仕方を身につけるよう努力します。
- 自分の歯の健康に対する関心を高め、歯と口腔の健康づくりに努めます。
- 食習慣が乱れることで、口腔内の健康にも悪影響をもたらすことを知り、むし歯や歯周病になりにくい基本的な生活習慣を身につけます。
- 各種イベントにおける「歯科コーナー」へ参加するよう努めます。
- 食後の歯みがきを習慣化します。
- 歯を強くし、むし歯を予防するためフッ化物の利用に取り組みます。
- よく噛んで食べるようにします。

④関係機関の取組み

- 歯科医療機関等の関係機関は、歯科健診、フッ素洗口、歯の健康に関する講演会などの開催に協力します。

5-5 働く世代（成人期 20～64歳）

【歯と口腔の特徴】

- 仕事や社会活動等で活動的な時期です。歯と口腔の健康に限らず健康づくりに関心が薄くなりやすい時期ともいえます。
- 生活やストレスを背景として歯周病予防に注意が必要な時期です。特に、50歳代から64歳は、歯周病が増加し、歯の喪失が始まる時期です。

【現状・課題】

- 20歳以上の歯周病検診の受診率は、10%以下と低くなっています。平成27年度では6.2%で、受診者数は、平成25年以降若干減少しています。〈図表 5-5-1〉〈図表 5-5-2〉
- 歯の健康に関心がある人は20歳代では61%ですが、30歳から64歳では75%以上となっています。歯間清掃器具（デンタルフロス・歯間ブラシ）を使用している人は、20歳代では18.1%ですが、50歳代では45.7%と、年齢が高くなるにつれ増加しています。〈図表 5-5-3〉〈図表 5-5-4〉
- 歯周病検診の結果から、20歳以上の約55%の人が歯肉の治療が必要（軽度+重度）となっています。〈図表 5-5-5〉
- 20歳代から80歳代では男性の受診が低い状況になっています。〈図表 5-5-6〉
- 歯科定期健診に行かない理由は「悪いところがない」、「忙しすぎる」が多くなっています。〈図表 5-5-8〉
- 80歳で20本の歯を維持するために若い世代から定期健診を勧める必要があります。

【基本方針】

- 自分の健康は、自分で守ることができるよう意識を高めるとともに健康に対する適切な情報を選択する力を身につけ、心身共に安定して過ごせるよう支援します。
- 歯と口腔の健康づくりの重要性を知り、自分にあった健康づくりが実践できるように支援します。
- むし歯や歯周病等の早期発見、早期治療ができるよう保健医療体制の充実を図ります。

【目標】

- 生活習慣病と歯周病の関係を理解し、自分だけでなく家族や仲間とともに歯周病検診を受け、歯と口腔の健康づくりに取り組むことができるように支援します。
- 生涯自分の歯でおいしく食べ、健康で快適な生活を送ることができるように支援します。

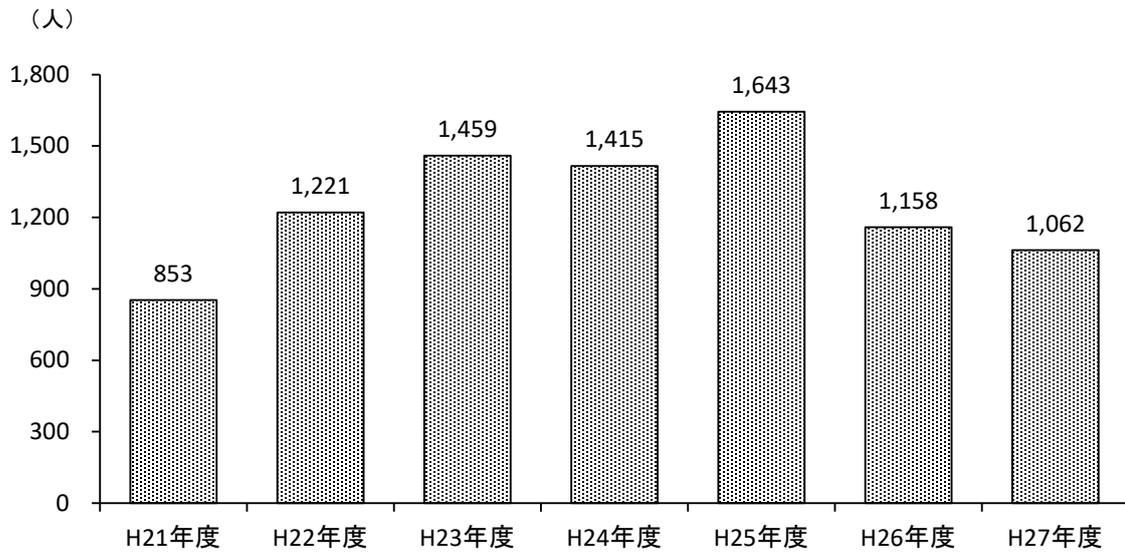
【指標】

指標			評価	目標値 (H38)	出典
1日の歯みがき回数が2回以上の人の割合(20～64歳)		81.1%	—	85.0%	H28年度伊豆の国市健康アンケート調査
歯間清掃器具(デンタルフロス・歯間ブラシ)を使用している人の割合	(20歳代)	18.1%	—	23.0%	
	(30歳代)	23.2%	—	28.0%	
	(40歳代)	36.1%	—	41.0%	
	(50歳代)	45.7%	—	50.0%	
	(60～64歳)	42.5%	—	47.0%	
歯周病検診受診率	(20歳代)	男 0.7%	D	男 1.0%	保健事業報告書
		女 2.1%	D	女 2.5%	
	(30歳代)	男 1.2%	C	男 1.5%	
		女 3.3%	D	女 3.5%	
	(40歳代)	男 1.0%	—	男 1.2%	
女 3.3%	—	女 3.5%			
(50歳代)	男 1.1%	D	男 1.5%		
女 3.6%	D	女 4.0%			
(60歳代)	男 1.8%	—	男 2.0%		
女 4.5%	—	女 4.7%			
一年に一回以上定期的に歯科健診に行っている人の割合	(20歳代)	26.8%	D	50.0%	H28年度伊豆の国市健康アンケート調査
	(30歳代)	40.9%	—	50.0%	
	(40歳代)	51.1%	—	60.0%	
	(50歳代)	52.8%	—	60.0%	
	(60～64歳)	45.3%	—	55.0%	
歯周炎の程度(CPITNコード0・1・2)の割合	(40歳代)	55.0%	—	60.0%	保健事業報告書
	(50歳代)	42.6%	—	50.0%	
	(60～64歳)	47.2%	—	55.0%	
歯周病検診の残歯26本以上の人数(60～64歳)		59人	—	100人	

【評価水準】 A：目標水準を達成している
C：目標に向かって改善がみられる

B：目標の5割程度を達成している
D：目標に向かって悪くなっている

●図表 5-5-1 歯周病検診の全体数(20歳以上)



出典：平成27年度 伊豆の国市保健事業報告

●図表 5-5-2 歯周病検診受診者の推移(20歳以上)

歯周病検診受診率は、どの年度も10%以下と低くなっています。

(人)

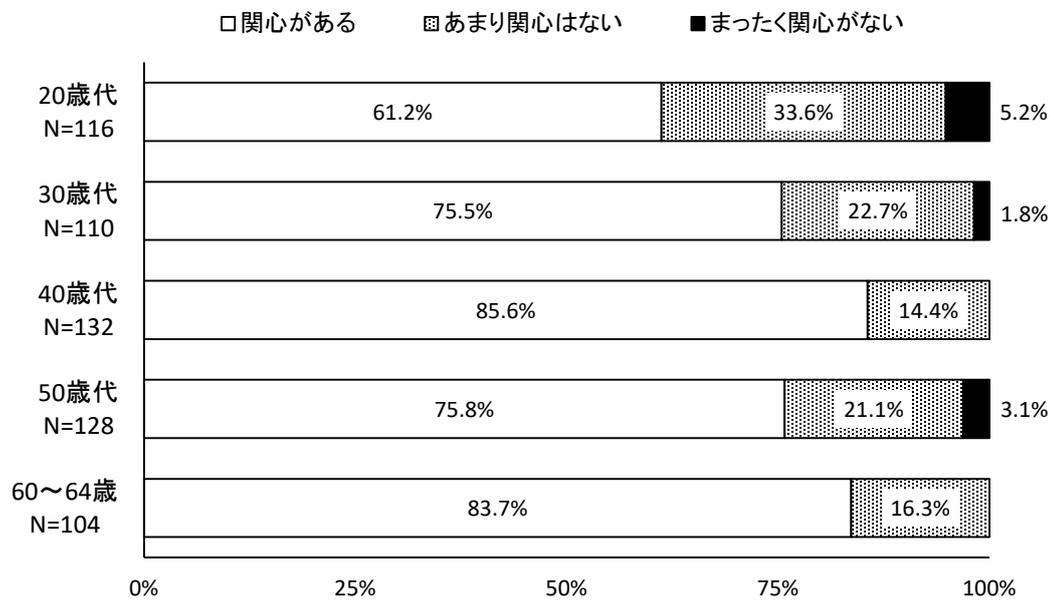
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
推計対象者		16,456	17,256	17,256	17,256	17,256
受診者数		1,459	1,415	1,643	1,158	1,062
受診率		8.9%	8.2%	9.5%	6.7%	6.2%
総合判定	異常なし	122	128	120	104	49
		8.4%	9.0%	7.3%	9.0%	4.6%
	要指導	145	144	140	69	65
		9.9%	10.2%	8.5%	6.0%	6.1%
要医療	1,192	1,143	1,383	984	948	
	81.7%	80.8%	84.2%	85%	89.3%	

* 推計対象者数は、国勢調査による市人口、就業者数、農林水産業従事者数、介護認定者4・5の人数を加味して算出。

出典：平成27年度 伊豆の国市保健事業報告

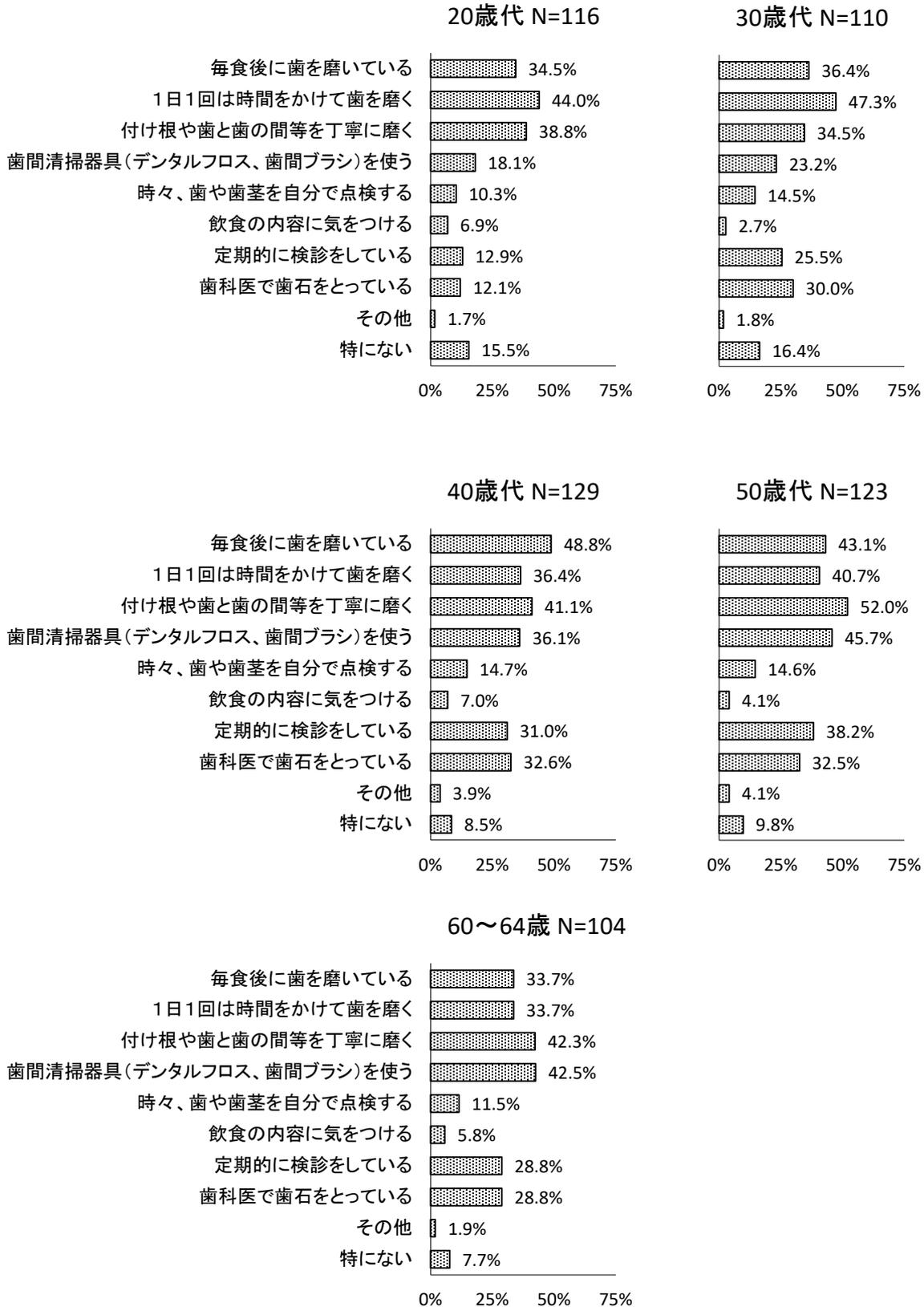
●図表 5-5-3 歯の健康への関心度(20~64 歳)

歯の健康への関心は高く、40 歳代で 85.6%、60~64 歳で 83.7%となっています。



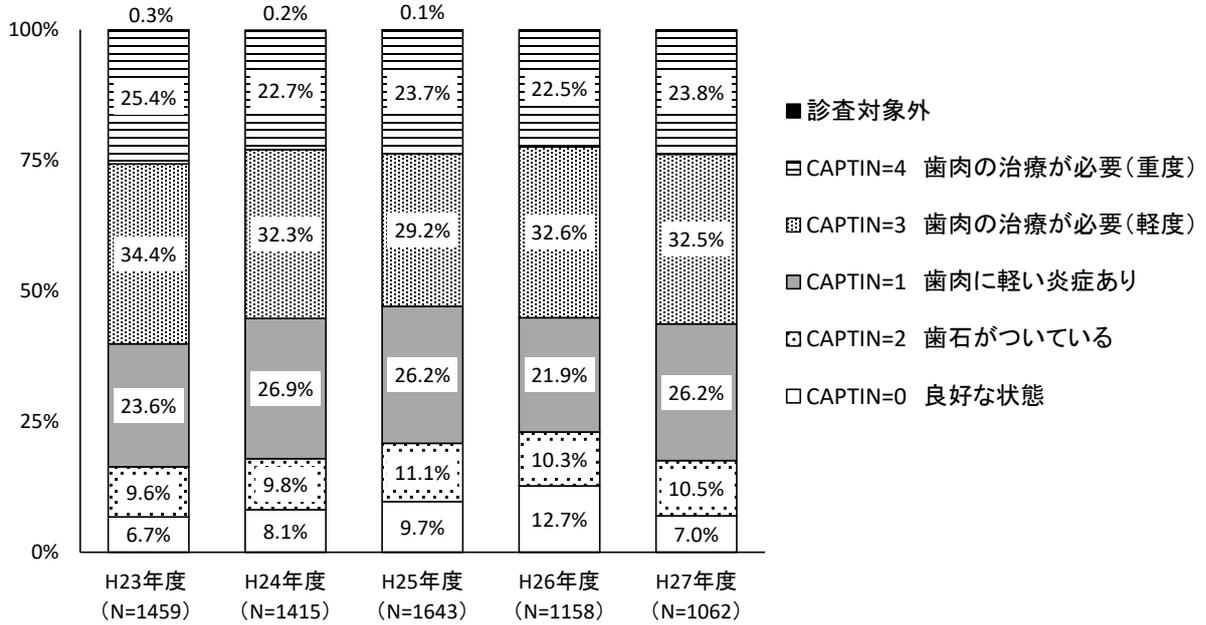
出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-5-4 歯の健康維持のために心がけていること



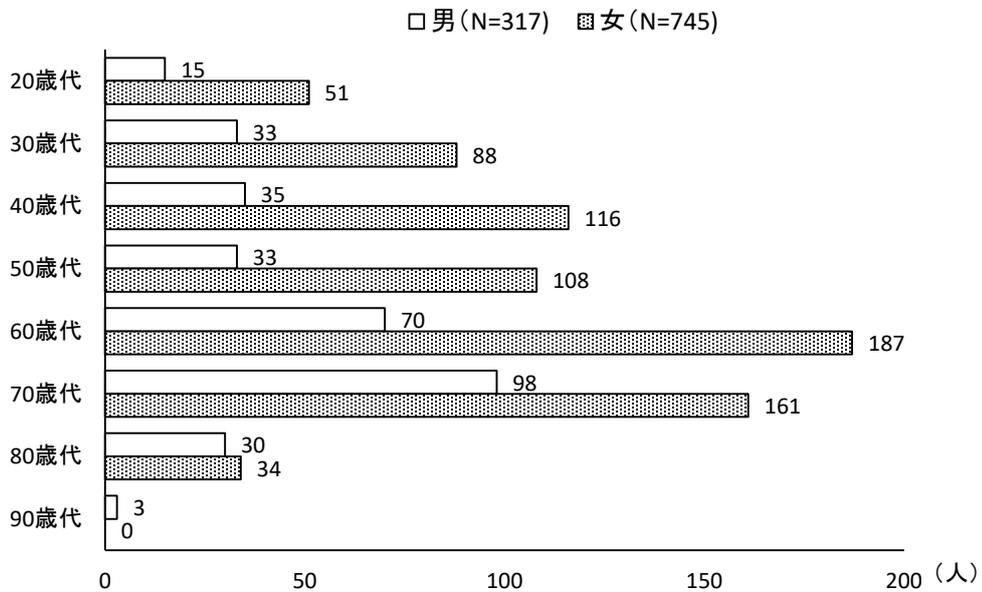
出典：平成28年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-5-5 歯周病検診受診状況(20歳以上)[再掲]



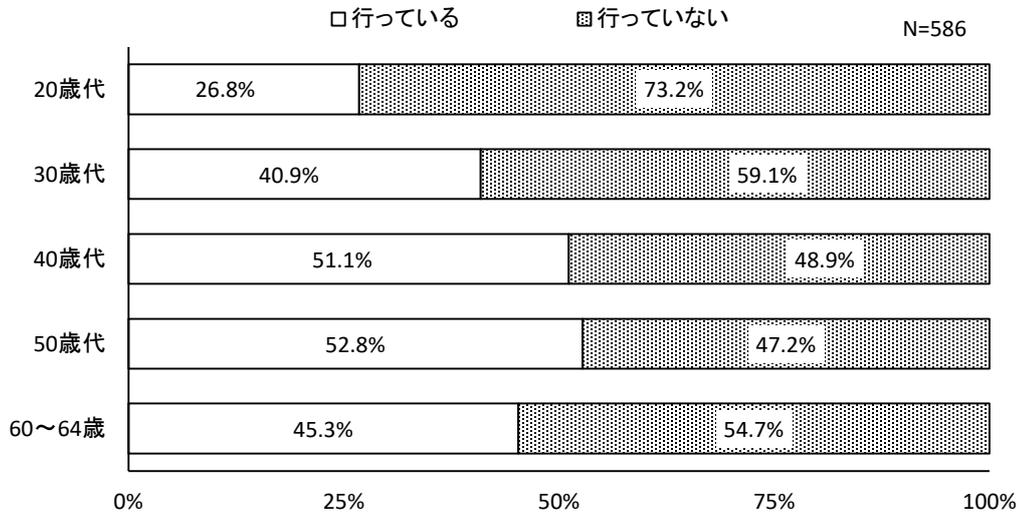
出典：平成27年度 伊豆の国市保健事業報告

●図表 5-5-6 歯周病検診の男女別・年代別受診者数(20歳以上)



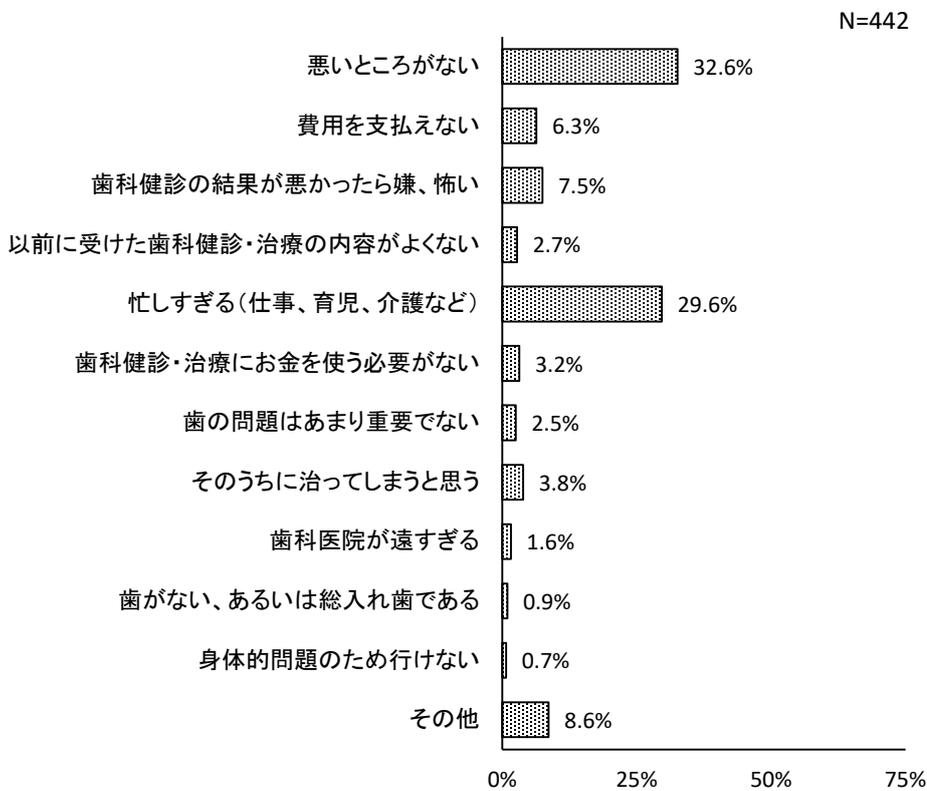
出典：平成27年度 伊豆の国市保健事業報告

●図表 5-5-7 年齢階層別の歯科健診受診状況



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-5-8 歯科健診に行かない理由(20～64 歳)



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

①健康づくり課の取組み

歯周病検診

- がん検診会場や医療機関、薬局などに掲示し、歯周病検診等の歯と口腔の健康づくりに関する情報を提供します。
- 歯周病検診を受けやすい環境整備に努め、受診率向上を図ります。
- 働く世代への働きかけとして、企業や関係機関と協力し、歯周病検診を勧めていきます。

歯科保健委員の養成

- 保健委員会の活動を通じて歯科保健委員の育成を図ります。

各種イベント会場歯周病検診・歯科相談

- 各種イベント会場で歯周病検診や歯周病予防などの教育、歯科相談を行います。

8020運動

- 8020運動に先駆けて60歳で26本の歯を持つことを目標に6026運動を実施します。
- 8020運動を通じて歯の健康づくりを啓発します。

普及啓発

- 関係機関、関係団体等を通じて歯周病検診の普及啓発を実施します。
- あらゆる機会を通じて、歯と口腔の健康づくりに関する情報提供をします。
- 歯と口腔の健康づくりに関心を持ちやすくなるようなネーミングや手段を工夫し、効果的に情報発信します。
- 家族ぐるみで健康的な生活習慣を身につけることができるように、歯と口腔の健康づくりを普及啓発します。

人材育成

- 歯と健康についての普及を進めるために、歯と口腔の健康づくりボランティアを育成します。

②歯と口腔の健康づくり委員会

歯周病予防講演会

- よく噛むことの大切さ、ブラッシング指導などの歯と口腔の健康づくりについて、歯周病予防講演会で啓発します。

普及啓発

- あらゆる機会を通じて、歯の健康が全身の健康づくりと関係があることを普及啓発します。
- 伊豆の国市歯のマスコットキャラクターハーミー♡の認知度向上と、ハーミー♡によるむし歯や歯周病予防の普及啓発に努めます。
- 8020運動に先駆けて60歳で26本の歯を持つことを目標に6026運動を実施します。

企業との連携

- 歯周病検診の導入を促進し、歯周病予防講演会を開催します。

③市民の取組み

- 正しい歯みがきの仕方を身につけるよう努力します。

- 自分の歯の健康に対する関心を高め、定期的に歯周病検診を受診するなど、歯と口腔の健康づくりに努めます。
- 各種イベントにおける「歯科コーナー」へ参加するよう努めます。
- 食後の歯みがきを習慣化し、歯間清掃器具（デンタルフロス・歯間ブラシ）を使用するよう努めます。
- よく噛んで食べるようにします。
- 食事の内容や規則正しい摂取など、歯にも関係する健康的な生活に配慮します。
- 禁煙に努めます。

④関係機関の取組み

- 歯科医療機関等の関係機関は、歯周病検診等を実施するよう努めます。
- 関係機関は、歯と口腔の健康づくりに努めます。

5-6 高齢期（65歳以上）

【歯と口腔の特徴】

- 歯の喪失が急増する時期です。
- 口腔機能の低下が起こりやすくなります。

【現状・課題】

- 20歳以上の歯周病検診の受診率は、10%以下と低くなっています。平成27年度では6.2%で、受診者数は、平成25年以降若干減少しています。〈図表 5-5-1〉〈図表 5-5-2〉
- 歯の健康に関心がある人は65歳以上では86.2%ですが、歯間清掃機具（デンタルフロス・歯間ブラシ）を使用している人は42.1%です。〈図表 5-8-1〉〈図表 5-8-2〉
- 歯周病検診の結果から、20歳以上の約55%の人が歯肉の治療が必要（軽度+重度）となっています。〈図表 5-5-5〉
- 20歳代から80歳代では男性の受診が低い状況になっています。〈図表 5-5-6〉
- 高齢期では、歯科健診を受けない理由として「悪いところがない」「歯がないあるいは総入れ歯である」となっています。〈図表 5-8-3〉

【基本方針】

○口腔機能の低下を防ぎ、生涯自分の歯で食べることができるよう支援します。

【目標】

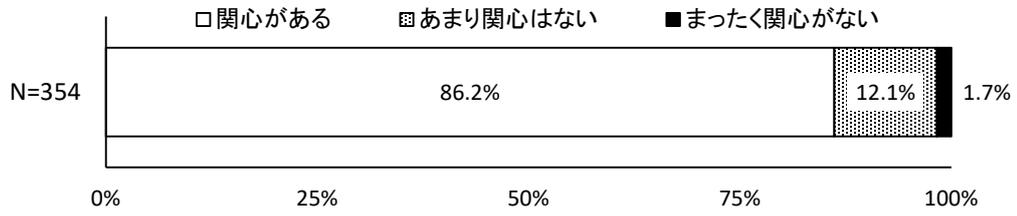
- 身体機能を低下させないために歯と口腔の健康づくりを普及啓発します。
- 生涯自分の歯でおいしく食べ、健康で快適な生活を送ることができるよう支援します。
- 生活習慣病と歯周病の関係を理解し、自分だけでなく家族や仲間と歯周病検診の受診や歯と口腔の健康づくりに取り組むことができるよう支援します。

【指標】

指標	現状	評価	目標値（H38）	出典
一年に一回以上定期的に歯科健診に行っている人の割合（65歳以上）	54.2%	D	60.0%	H28年度伊豆の国市健康アンケート調査
歯間清掃器具を使用している人の割合（65歳以上）	42.1%		45.0%	
歯周病検診受診率（70歳代）	男 3.3% 女 4.8%	D D	男 5.0% 女 7.0%	保健事業報告書
8020該当者人数	31人	C	35人	

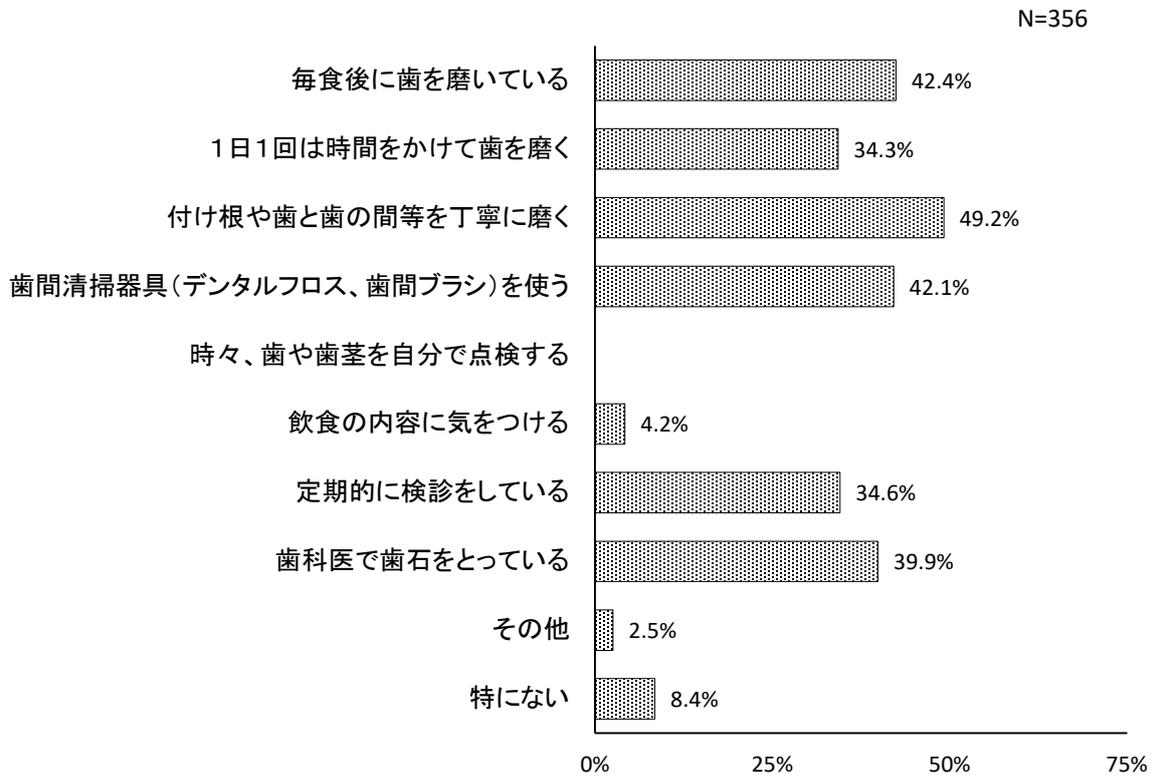
- 【評価水準】 A：目標水準を達成している B：目標の5割程度を達成している
C：目標に向かって改善がみられる D：目標に向かって悪くなっている

●図表 5-8-1 歯の健康への関心度(65 歳以上)



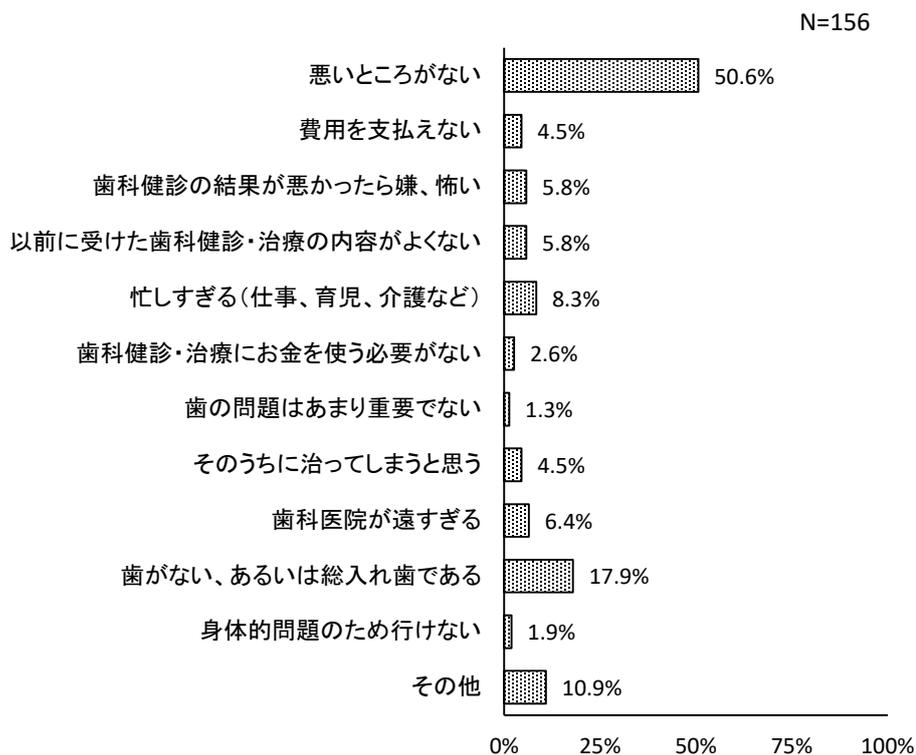
出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-8-2 歯の健康維持のために心がけていること(65 歳以上)



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

●図表 5-8-3 歯科健診に行かない理由(65 歳以上)



出典：平成 28 年度 伊豆の国市健康づくり市民アンケート

①健康づくり課の取組み

歯周病検診

○がん検診会場や医療機関、薬局などに掲示し、歯周病予防、歯周病検診等の歯と口腔の健康づくりに関する情報を提供します。

○歯周病検診を受けやすい環境整備に努め、受診率向上を図ります。

歯科保健委員の養成

○保健委員会の活動を通じて歯科保健委員の育成を図ります。

各種イベント会場歯周病検診・歯科相談

○各イベント会場で歯周病検診、歯周病予防などの教育、歯科相談を行います。

8020運動

○8020 運動により歯の健康づくりを啓発します。

○80 歳で 20 本の歯を維持している人を表彰します。

普及啓発

○関係機関、関係団体等を通じて歯周病検診の普及啓発を実施します。

○あらゆる機会を通じて歯と口腔の健康づくりに関する情報提供をします。

○歯と口腔の健康づくりに関心を持ちやすくなるようなネーミングや手段を工夫し、効果的に情報発信します。

○家族ぐるみで健康的な生活習慣を身につけることができるように歯と口腔の健康づくりを普及啓発します。

人材育成

○歯と健康についての普及を進めるために、歯と口腔の健康づくりボランティアを育成します。

②歯と口腔の健康づくり委員会

歯周病予防講演会

- よく噛むことの大切さ、ブラッシング指導や義歯の手入れの仕方などの歯と口腔の健康づくりについて歯周病予防講演会で啓発します。
- 伊豆の国市歯のマスコットキャラクターハーミー♡の認知度向上と、ハーミー♡によるむし歯や歯周病予防の普及啓発に努めます。
- 紙芝居等の媒体を使って、分かりやすい歯と口腔の健康づくりの普及啓発に努めます。

普及啓発

○あらゆる機会を通じて、歯の健康が全身の健康づくりと関係があることを普及啓発します。

③市民の取組み

- 正しい歯みがきや義歯の手入れの仕方を身につけるよう努力します。
- 自分の歯の健康に対する関心を高め、定期的に歯周病検診を受診するなど、歯と口腔の健康づくりに努めます。
- 各種イベントにおける「歯科コーナー」へ参加するよう努めます。
- 食後の歯みがきを習慣化し、歯間清掃器具（デンタルフロス・歯間ブラシ）を使用するよう努めます。
- 歯の喪失があった場合も、自分にあった義歯を入れるなど歯科医師に相談し、よく噛んで食べられるようにします。
- 食事の内容や規則正しい摂取など歯にも関係する健康的な生活に配慮します。
- 禁煙に努めます。

④関係機関の取組み

- 歯科医療機関等の関係機関は、歯周病検診等を実施するよう努めます。
- 関係機関は、歯と口腔の健康づくりに努めます。

